

次の100年に向けて

会長 井上友二



明けましておめでとうございます。

年初のならいとして、会長としての決意と今までの活動を振り返ってみます。初夢に終わらないように引き続き頑張ります。

会長就任挨拶（2013年総会及び会誌7月号）でコミットさせて頂いた、「2017年から始まる新たな100年に向けて本会の改革に着手すること。それを可能とする財務を含めた中長期戦略と組織改革の基礎を提案すること。」に全力で取り組んでいます。

早いもので半年が過ぎましたが、これからの学会の在り方として、変えてはならないことに加えて二つの新しい方向を提示しました。一つ目がグローバル化の次の世界パラダイムを想定した「マルチカルチュラルな活動」への進化、二つ目が変化する「社会や産業界との新しい連携」を確立することです。この新基軸の実現について、今後数年かけて会員ばかりでなく関連する専門家や機関を巻き込んだ活発な議論を広げていきます。

私の役割の重要な部分は、新機軸の議論を活性化するとともに、こうした新しい活動を可能にするための「余裕の創設」、言い換えれば現活動のリストラです。学会は会員諸氏がボランティア的に熱意を持ってそれぞれの分野で活動して頂いているので、現在の活動に無駄や惰性はありません。しかし、現状のままでは新しい活動を実行することはできないというジレンマがあります。あえてリストラを断行しなければならないのです。この強い気持ちで臨んでいます。その具体例を以下に示します。ぜひ、御理解と御協力をお願いします。

- (1) 3万人強の会員の大半は、いわゆるサイレント会員です。情報が少なかった20年前は、会誌や論文誌それに研究会や大会などは、貴重な情報源であり多くのサイレント会員にとっても価値がありました。今は、どうでしょうか。情報はちまたやネットにあふれていて、その内容もICTの新技术から「ICTによる社会や企業活動の革新」へと多様化しています。この多様化への対応の遅れが、企業会員の減少につながっています。学生員が企業に入ると2年後には2/3が退会するというのが現実です。技術成果中心の情報発信だけでは、もはや社会の要請に応えられません。この打破の切り札が、森川総務理事が2013年8月号の巻頭言で提案された「ストーリーを語れる学会へ」です。この議論の深化と具体化を新活動として推進してまいります。
- (2) I-Scoverが2013年4月に稼動し始め、ようやく本会の著作物を広く社会的に活用できる基盤が動き出しました。これを、本会並びに関連学会や産業界、更には国際セクションを通じて連携できる世界の著作物とオープンリンクでつながる横断的な知識ネットワークとして発展させ、新しい本会の情報発信・交流の基盤として確立します。また、システム基盤の強化もBCP（大災害後の業務継続性）対策を含めて最優先事項です。
- (3) 委員会の大幅なスリム化と事務局の実行機能の強化を掲げました。現在の30余ある本部委員会を半数以下に整理統合して、新基軸を盛り込む新組織を構成します。委員会などで決定したことを実行できる仕組みは、既に事務局内に具体化しつつあります。例えば、昨年末にシステム専任部長1名を試行的に配置し強化に乗り出しました。
- (4) 新施策を実行する財務基盤を確保するため、守倉・荒木両会計理事を中心に財務タスクフォースを結成して、精力的に活動して頂いています。

改革議論は緒に就いたばかり。各ソサイエティやグループの会合に私も参加して議論を始めましたが、これからが本番です。オープンな学会サロンという試行も合わせて、皆様の議論が盛り上がり、次の100年に向けた基盤を創設して2017年を迎えられることを期待します。